

神戸だより

台湾交流支援の会 2018.10発行 Vol.12

托你們的福「神戸消息」迎接發行一周年。非常感謝大家一直以來給予我們的關心。

＜神戸の今：神戸のよさこい祭り＞ 高橋幹夫

日本には全国各地に様々なお祭りがあります。

9月の神戸便りでは徳島県の阿波踊りが掲載されていましたが、やはり同じ四国の高知県にも1954年から始まった「よさこい祭り」という大きなお祭りがあります。このお祭りが1990年から全国各地で開催されるようになりました。神戸では2000年に始まり、規模を拡大し現在は「神戸よさこい祭り」として毎年盛大に開催されています。

神戸よさこい祭りの特徴の一つは運営体制です。関西の学生によって構成された実行委員会がボランティアとして企画・運営しています。今年は8月31日から9月3日迄開催され全国から大学生ほか各団体多数が参加しました。



神戸にはもう一つのよさこい祭りがあります。それは「KOBE ALIVE ～神戸新舞」です。これはNPO法人が企画し各団体の後援のもとに2007年から始まったお祭りで内容は「神戸よさこい祭り」とほぼ同じです。まだ歴史は浅いですが全国から50チーム2000人以上の若者が参加します。今年は9月22日23日に開催されました。



今年は両方見に行きましたが若者たちのパワフルでダイナミックな踊りには大変感動し、若いエネルギーを分けてもらった気持ちです。色鮮やかな衣装を身に着けた大勢の若者達が踊り、跳ね、廻る姿は本当に感動の一言です。また来年も会場に行き若さをもらって来たいと思います。

〈神戸で開催の国際電気自動車展示会 小高 功〉



9月30日(日)～10月3日(水)第31回の国際電気自動車シンポジウム・展示会が神戸市ポートアイランドで開催されました。日本での開催故、日本企業・団体の出展が111社と多いのですが、海外からも89社が参加、合計200社が新しい市場でのビジネスを競っておりまして。しかし自動車産業界最大の開発競争の分野でありながら、今一つ盛り上がり欠ける状況でした。欧米(特にドイツ)、中国よりの参加が充電システム関連企業に留まり、自動車会社の参加がないことが原因のように思えました。

この展示会を見ての感想ですが、

(1) 電気自動車展示会でありながら、プラグインハイブリッド車、燃料電池自動車も展示されている。各社の今までの開発方針の違いがそのまま表れ、開発競争での強い緊迫感が感じられない。マスメディアで大々的に報道されているアメリカ・テスラ社や中国各社が参加していませんでした。

(2) 充電等関連製品の開発展示

世界自動車部品最大手のドイツ・コンチネンタル・オートモーティブ(株)、ブレグジット(Brexit)を目指す英国関連業界、カナダケベック州EV関連企業、充電システム関連の国際メンバー150社の協会さらに中国の企業10社がそれぞれの開発製品で展示を競っていた。この分野での中国の若い企業の意気込みとあまり見かけない英国からの展示に英国のEU離脱の危機感を感じました。

(3) 実使用中の自動車用モーター(2社)の展示

①台湾の富田電機股?有限公司(FUKUTA ELEC&MACH.)がテスラに提供モーターを展示、提供台数は秘密でした。

②中国スタートアップ企業(eKontrol Drive Technology)が国内市バス向けの大型モーターを展示。

(4) 電気モーターで駆動されたバス、乗用車、二輪車の試乗サービス
日本車の他、米国テスラ、ドイツ3社(ダイムラーベンツ、フォルクスワーゲン、BMW)にお客様の列ができ、特に黒のテスラは多数の外国人で混雑しておりました。

